

令和5年度第1回白井市まち・ひと・しごと創生審議会

議事概要

日時：令和5年5月9日（火）午前10時から12時

場所：白井市役所東庁舎3階会議室302・303

出席者：【委員】

高尾 公矢会長、山田 壽一副会長、伊藤 治委員、齊藤 重光委員、
駒村 武夫委員、染谷 敏夫委員 中村 泰章委員、大野 哲生委員、
河野 はるか委員、古作 優一委員

【事務局】

企画政策課 村越課長、松田係長、多納主任主事、佐竹主事
秘書課 今井係長、中島主任主事

1 開会

2 議題

（1）令和4年度地方創生推進交付金の効果検証について

【会長】

改めまして、おはようございます。本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

今回は、昨年度末の3月に、白井市の現状や地方創生に関わる制度概要や公務の効果検証について説明を行いました。今回の審議会では、主に前回説明のありました国の制度を活用した事業のうち、地方創生推進交付金を活用した事業及び指標について検証と、今年度活用を予定しているデジタル田園都市国家構想交付金に関する審議を行います。事業の取組や進捗を確認しまして評価すると共に、国の制度をどのように活用していくのか等を検討していくこととなります。まち・ひと・しごと創生総合戦略を次につなげていくことが役割となっております。

委員の皆様におかれましては、忌憚のない御質問、御意見を伺いたいというふうに思います。今日は、審議内容にボリュームがありますので、できるだけスピーディーに進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それと、もう一つは、個々の委員の皆さん方の意見というのは重要なのですが、審議会としての意見が求められておりますので、とにかく言いつばなしでなくて、まとめるというような形で進めていきたいというふうに思いますので、ひとつよろしくお願いたします。

それでは、次第に沿いまして議事を進行してまいります。

議題1、令和4年度地方創生推進交付金の効果検証についてです。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料1に沿って説明。

【会長】

それでは、今事務局から令和4年度地方創生推進交付金につきまして、資料1を中心として説明をいただきました。これから委員の皆様方には、次の視点を主なものとして、御審議をお願いしたいというふうに思います。

まず1点、KPIの達成状況はいかなものかということです。2番目は、事業が地方創生において有効か否かということです。それから三つ目は、事業の良い点、悪い点、改善点があれば、どういうふうに改善していけばいいのかと御提案をいただきたいということです。3点を踏まえまして、御審議をお願いしたいというふうに思います。いかがでしょうか。

委員さん、ありますか。

【委員】

御説明をお聞きして、大変きめ細かな対応をされているなというところですか。費用対効果ということになりますと、何とも言いようがないという。500万単位の予算の中で、これをやられているということなのでしょうけれども、本来の目的を達成するため、逆に言えば、どれくらいの規模の内容にすれば効果が上がるのか。その効果を上げるためには、逆にどれくらいの予算をかけなければならないのかという視点も、あってもいいのではないかなというふうに思いました。あとは、絞り込みとかですね。

しかし、説明を聞いている限りでは、一つ一つ非常にきめ細かに皆さん一生懸命対応されていると、そういう印象で。まとまりませんけれども、印象としてはそういう課題でした。

以上です。

【会長】

ほかに御意見がありましたらお願いしたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

委員さん、いかがでしょうか。

【委員】

成果、指標を見ても、目標はおおむね達成をしている状況だと思います。ただ、目標が少し低いのかなと。私どもも、工業団地のホームページにも「しろいまっち」さんのリンクを貼って、やっている状況でございますけれども、白井市そのものを見に来る方が非常に少ないのかなと。アクセス数でいうと相当事業そのものは上回っていますけれども、まだまだ広くこの「しろいまっち」が知られている状況にはない状況がありますので、より「しろいまっち」そのものをPR、活用する方法を今後も検討していただければというふ

うに思います。

以上でございます。

【会長】

ほかに御意見、御質問いかがでしょうか。

どうぞ、お名前をお願いいたします。

【委員】

とても素晴らしい取組で、内容的にはよろしいと思うのですが、ただ、こちらポータルサイトということでインターネット上で行われているものですが、インターネットで白井市と検索したときに、このポータルサイトが検索の上のほうに引っかかってこないという事実があると思うのですが、広報紙やそういったペーパーベースなどでのPRも大事ですが、インターネット上での飛べるリンクを作るとか、そういった形の広報の仕方、PRの仕方というのも大事なのではないというふうに思いました。

以上です。

【会長】

ほかに御意見をまず伺ってから議論に入りたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

どうぞ、委員さん。

【委員】

確認なのですが、今まで委員を何期かやってきまして、過去の議事録の内容について御質問したいと思うのですが、まず2点ほどあります。

令和3年11月10日の審議会の議事録の中において、私の発言した部分ですが、プラットフォームの事業内容の検証に関して御質問をしました。そのときの答弁としまして、審議会の中でコンテンツの在り方について議論できるのかどうかということを質問したのに対しまして、随時反映していければ、また充実を含めながら効果検証を行っていきたいというように御回答があるのですが。

その際、効果検証シートの中に、どのように充実したのかという点の表記があったほうがより分かりやすいかなと思って、今回配られた資料1を見たのですが、これは多分、成果の中の2番目のプラットフォームにおける事業者、団体数というものであって、コンテンツの中身に関しての表記がないような気がしました。そうすると、発足時のコンテンツの数と中身と、今回ではこのように増えましたというのがもしあれば、より効果検証する場合にいいのではないかとことを思いましたので、この効果検証シートに追加することが、あるのかなのかということが1点目です。

2番目なのですが、これは令和4年5月17日の審議会で話したのですが。これは今お話がありましたように、令和5年までは、運営としてポータルサイトは市の補助金であると、令和6年度からは自主運営だということなのですが。そのときの質問として、ポータルサイトに掲載する場合に有料ですと。事業者が有料として、お金を払って出しますよとい

うことをたしか言われたと思います。その際の質問としまして、事業者の規模によってポータルサイトに出すときの費用がどうなるのかという質問をしたときに、手元に資料がないのでという話でしたので。もし分かれば、事業者の規模にかかわらず、1掲載に関して幾らということなのか、それが今後、自主運営をした場合に、高いとなかなか難しいような気がします。その金額で今まで掲載する企業が増えたのかどうかということが分かればと思います。

あと最後に、今後の方針の中で、これは評価の点で、地方創生に非常に効果的だったというように、非常にというところがありまして。これも前回も話したのですが、何ををもって非常にというのか、これはもう少し具体的に、このような点に対して非常に効果があったという表現にしたほうが。抽象的に非常というと、どうなのかなと思います。これは前回も話をしたと思うのですが、その点について。もし変更するならば、するし、このままでよければ、もう少し何ををもってという客観的なものも、このところに付け加えたほうがより効果的ではないのかなというふうに思いました。

以上です。

【会長】

それでは、事務局のほうで説明する部分がありましたら。今の委員の意見に対して、説明する部分がありましたら、お願いしたいと思いますけれども。いかがでしょうか。

【事務局】

ちなみにコンテンツの充実の表現の仕方というのは、取組状況で、具体的に経年変化として、コンテンツが昨年から比べてこういうふうに充実しましたという書き方がよろしいのか、それとも、例えば成果のところ新たに項目を追加して、この年にはコンテンツがこれだけありましたみたいな数値として表したほうがよろしいのかと、どちらになりますでしょうか。

【委員】

今後の方針の事業効果で、非常にというものがありますので、コンテンツが増えたというような点が目に見えていたほうが、非常に良かったのだなというような部分に感じるのですが。別枠でやっても、それはいいのですが。ただ、いつもリンクしておかないと、コンテンツの変化という部分が見えないかなというふうに思うのですけれども。

【事務局】

今、委員さんのほうからお話があったような形ですと、取組状況のほうに落とし込めればいいのかというところがありますので、秘書課のほうから説明をさせていただければと思います。

【会長】

秘書課のほうでよろしいですか。

【事務局（秘書課）】

御指摘いただいた事項ですけれども、効果検証シートに載せるかについては、せっかく御意見頂きましたので、検討しまして載せるようにしたいと思います。

コンテンツの数の充実の数値につきましては、申し訳ありません、集計しないと正確な数が出ませんので、また改めて報告させていただければと思います。

次に、ポータルサイトに掲載するときの料金についての御質問があったと思うのですが、昨年度は、すぐにお伝えすることができずに申し訳ございませんでした。こちらの料金につきましては、サイトにも実は表記が出ておりまして、月額 7,700 円で、初期費用として 1 万 6,500 円の費用が発生しております。月額、初期費用ともに税込みになっております。

規模によって料金が違うのかという質問でしたが、一律、今のところ、どの事業者さんでも、この金額で掲載をしております。

また、昨年度なのですが、有料広告とは別に、求人広告についても力を入れるようにしておりまして、今、求人広告を 6 社掲載させていただいているのですけれども、こちらは、掲載 1 点あたり 1 万円ということで話を聞いております。

また、新しく「しろいまっち」の LINE を開設したのですけれども、こちらのほうも最初はお試しで掲載をさせていただいていたのですが、1 回当たり掲載 2,000 円を掲載料として、今年の 6 月から取ることも考えているということで報告を受けております。

以上です。

【会長】

よろしいですか。

【委員】

ありがとうございます。

【会長】

では、検証シートですけれども、コンテンツを増やすということも考えられないことはないですけれども、今日の会議は、事務局が出してきたこの手法に基づいて、達成状況はどうか、地方創生に効果が有効であるかどうか、どの点に問題があるかという点を議論していただきたいというふうに思うのです。ですから、あまりコンテンツを増やしてというのは、後のことにしていただきたいというふうに思います。今後のことについて検討していただきたいと思います。もし今、増やせるものがあるとなれば、それはやっていただいて結構なのですけれども。今日の議論には間に合わないということです。

ということで、この検証シートを基に議論をお願いというふうに思います。検証シートを見ますと、成果としましては、イベント数も増えていきますし、団体事業者数も増えているということです。ただ、アクセス数はあまり変わっていないのかなという感じがします。それから、社会増減数はちょっと減っているのかなという感じがします。だけれども、一生懸命取り組んでいらっしゃるということでは、評価ができるというふうに思うのですけ

れども、その点はいかがでしょうか。達成状況についてはどうでしょうか。

【委員】

この数字を見る限り、令和3年度に比べて、令和4年度、物すごく伸びている。ですから、非常にという表現が使われたのは、そうですねと言わざるを得ないというところではないかと。

ただ問題なのは、今言われたように、何をやったらもっとこれが大きな数字に伸びていくのかという、そこのアイデアが工夫しないといけませんね。ですから、花火ではないけれども、ドーンと、エッジを立てるとい言葉がありますけれども、この白井市のどこにエッジを立てたら、もっとアクセスが伸びるのか、そこら辺の工夫が欲しいなというところ。でも、結果的には素晴らしいのではないですか。

【会長】

ほかに御意見いかがでしょうか。達成状況については、効果はあると判断ができるということではいかがでしょうか。

今やっている事業が、地方創生に有効であろうということは間違いない。要するに白井市の存在意義を知らしめていくわけですから、やるべきだというふうに思います。もっとこういう点をこうしてほしいとか、改善したらどうかという、今、駒村さんの意見もありましたけれども、そういう点について、少し議論をお願いしたいというふうに思います。いかがでしょうか。

どうでしょうか。銀行の方はいかがでしょうか。どうぞ、お願いします。

【委員】

よろしくお願ひいたします。今、話聞かせていただいて、私も白井に来て、白井支店で働いて4か月になるのですけれども、お恥ずかしい話、この「しろいまっち」というものがあるということを知らなかったもので、今日、入れさせていただきたいと思うのですけれども。こういったコンテンツがないと、多分「しろいまっち」を発信していけないと思うので、これは継続して行ってほしいなというふうに思いました。

あとは、みんなLINEであったりとか、SNSを使っている方が多いので、どれだけ母体数を広げられるかというのが今後の課題かなというのありました。

以上です。

【会長】

委員さん、どうですか。

【委員】

よろしくお願ひいたします。先ほど、委員からお話ありましたけれども、私もこの内容を確認させてもらったときに、「しろいまっち」の普及というのが一番大事だと思いました。私も昨日、ネットで「しろいまっち」を見させてもらった中で、そういったところでバーンと見たときに、バーンと来るものがあるとか。あとは「しろいまっち」を開けるに

も、例えば、これはできるのかどうか分かりませんが、駅のところに「しろいまっち」見てねとか、「しろいまっち」の普及が一番大事ではないかなと私は個人的には思いました。

【会長】

ありがとうございました。ほかに御意見どうぞ。

【委員】

現在は補助金を使って取り組んでおりますけれども、「しろいまっち」の方向性を内容から見ると、今のところ行政情報、あるいはイベント情報が主体で、これだと限界があるわけですね。地域に特定されたような感じで。

今後、補助金がなくなったときに、流れとしては、民間コンテンツとして変更していかなければならない。あくまで行政情報はサブ的なもので、主体は民間情報。「しろいまっち」を運営している方にも提案をしたのですけれども、白井市の人口を増やすために何が必要ですかと。そこには、白井市の魅力は景観だとか、そういったものは入っている。足りないのは民間情報ですよ。ですから、人を増やすときに、不動産情報を積極的取り入れなさいよと。その不動産が白井であるか、西白井である、その地域はこういう景観があります、こういう店舗がありますよと。ですから、行政主体のコンテンツではなくて、民間主体のコンテンツにしていかないと、これは運営ができないと。

そうすると、先ほど言いましたけれども、アクセス数これだけでいいのですかと。指標が25万件ですか。令和5年度も25万件。これは250万件にしないと、人は増えてこない。ですから、方向としては間違っていないけれども、今後は民間主導のコンテンツに変えていかないと、なかなか発展はしてこないだろうというふうに思いますので、そこを今後検討してもらえればと。行政が補助金出したからといって、行政主体ではなくて、今後は民間主体のコンテンツとして、そこに行政がタイアップしていくという方向がよいかというふうに思います。

【会長】

とにかく「しろいまっち」を積極的に広報していくのだと。その際に、今、委員さんがおっしゃいましたように、民間の主体にして活動していくのだと、それは皆さん方、意見が一致しているというふうに思います。だから、その際に、民間に活躍してもらうためには、行政がどうすればいいかという、そういうことが僕は重要なのではないかなと思います。今までは割合、行政が主体になって民間を引っ張っていくというようなことでしたけれども、今度は、民間を主体にして、行政がそれを支援していくという形に切り替えていくときに、どういったサポートが必要なのかということが求められてくると思うのです。

特に、5年度まではいいのですけれども、6年度から補助金がなくなるわけですから、そのときに「しろいまっち」とか、そういうものが続けていけるかどうかということが最初に私たちも議論しましたけれども、課題になると思うのです。そういうことも含めて、今から民間を行政がサポートをして活躍してもらうというような形を取らないと、なかなか

か難しいのではないかという意見ですね。

ほかに御意見がある方、どんどんお願いしたいと思います。よろしいでしょうか、話としては。

【委員】

たびたびで恐縮なのですが、白井市の工業団地がありまして、会社が231社加盟しているのですが、そういった会社の市民の皆さんに対する要望とか、市民の持っている力とか、そういったものが共有できると、一緒にやりませんかということが可能になってくるのではないかと思うのです。

市民の皆さんも、そういうニーズがあるのだということを知って、私こんなニーズがあるの、スキル持っていますよというようなことを発信していただいて、共有できると、新たなものが見えてくるのではないかなというふうに思うのです。ですから、そういった場として、このネットワークが構築されると、より面白くなっていく。無責任な話だから言いますが、しかし、小さな町であるがゆえに、逆に言えば、非常に面白いという視点もあるのではないかなというふうに思います。

以上です。

【会長】

御意見があれば、今お願いしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。それでは、今議論いただきましたけれども、目標も達成しているし、事業は地方創生において有効であるというふうに考えられます。

ただ、今後は補助金のことも考えまして、民間主体に切り替えていくと。そして、市民を巻き込んだネットワークづくりというような形を進めていくということが求められると。そういう点を踏まえて進めていっていただきたいというようなことでよろしいでしょうか。

それでは、議題の1ということに関しては終了したいと思います。よろしいでしょうか。

【事務局】

議題1に関して、一番最後のシートのところで、まち・ひと・しごとの創生審議会としての御意見を記入する項目がございますので、こちらに関しては、今皆様から頂いた意見を基にして、会長とすり合わせをさせていただいて記載するような形にさせていただいてよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

(2) 令和4年度の企業版ふるさと納税の状況及び令和4年度のまち・ひと・しごと創生総合戦略の指標の検証について

【会長】

それでは、議題の2に移りたいと思います。令和4年度の企業版ふるさと納税の状況及び令和4年度のまち・ひと・しごと創生総合戦略の指標の検証について、事務局から説明

をお願いいたします。

【事務局】

資料2及び3に沿って説明。

【会長】

事務局から、令和4年度の企業版ふるさと納税の状況及び令和4年度のまち・ひと・しごとの創生総合戦略の指標の検証について説明をいただきました。

では、連動しています第5次総合計画後期基本計画2年目で、また引き続きコロナ禍ということもあって、実績が芳しくないというようなものもあります。今の事務局からの説明に対して、質問や確認があれば、お願いしたいと思います。

先ほど、同じようにKPIの達成状況、それから実績値を踏まえまして、施策に対して目標指標の対応が適切な否か、実績値を踏まえまして目標指標の目標値達成に向けて、改善策はあるのか、どうすればいいのかというようなことも含めて、御議論いただきたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

まず、企業版ふるさと納税の状況について、2社ということですか。これはどうなのですか。もっと増やすという可能性はあるのですか。

【事務局】

お答えさせていただきます。令和3年度1社、令和4年度2社というところで、これが着実に増えていると言えるのかどうかというところがございますが、金額としても増えているところがございます。

ただ、やはり周知というところが、ホームページで周知させていただいたり、あとは内閣府のやっております企業版ふるさと納税ポータルサイト等での周知、窓口の周知というところに限定されていた部分もございましたので、本年度から、また周知というところに力を入れさせていただいております。

私、官民連携関係全般の担当もさせていただいているのですけれども、企業の皆様とお話させていただいたときに、企業版ふるさと納税をそもそも御存じでないということもございますので、そういったところの周知に力を入れさせていただいて、あとは、企業の皆様のメリットですとか、市のほうでも、企業版ふるさと納税をいただいたところの事業者様、ホームページでこうしたところで協力いただきましたみたいなどの周知も力を入れさせていただいて、増やしていけるような取組ができればと考えております。

そういった一貫の中で、市長の就任挨拶というところに合わせまして、市と連携いただいている事業者のところにも、企業版ふるさと納税の案内を合わせて送付できればなどということで今年度考えているところがございます。

【会長】

企業に周知させていくということも重要なのですけれども、その際に、寄附をすれば、企業側にとってメリットはどういう点にあるのだというようなところをアピールしていく

という、そういうことが重要なのかなと思います。

この資料を見させていただきますと、宛先について、若い世代が定住をするまちづくりとか、あるいは、産業が活力を生み出すまちづくりに費用を使っているという点では、非常に効果的だなというふうに思います。だから、もっと額が大きければ、もっと効果が発揮するのではないかというふうに思いますので、いかに企業側にアピールしていくかということが重要なのかなと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

たびたびで恐縮ですけれども、今説明があって、企業版ふるさと納税の企画に御案内していきますということなので、それを見れば分かるかなと思いますけれども。各企業の方が旗を上げるという、これをやりたいです、こういうことをやりましょうということで旗を上げるための何か条件や要件があるのですか。それはどこかで審議されて、認めましょうということになるのですか。それは説明要項を見れば分かるということになるわけですよ。

【事務局】

お答えさせていただきます。企業版ふるさと納税のほう、地域再生計画のほうを認定されてございまして、その項目に沿ったものに関して、企業の皆様から、この項目に充てていただきたいというところで御意見頂いたものに関して、充てるというような形になっております。ですので、基本的には、ピンポイントでこの事業に充てていただきたいというよりは、もう少し大きなくくりとして。若い世代が定住するまちづくり事業、人を魅了するまちづくり事業、産業が活力を生み出すまちづくり事業、住み続けたいまちづくり事業という形で、それぞれの事業に沿う形の事業であって、かつ、令和3年8月20日以降に、市のほうで新規事業をやっているものに関しては、充てられるという形になっておりますので、まず本社が白井市にない事業者の方から御相談をいただいた際には、こういった事業がございましてというところで、御案内はさせていただくというところなのですけれども、ただ全ての事業を網羅的にホームページに載せるというところは、さすがに厳しいところがございますので、ホームページのほうには、その中でも、特に目を引きそうな小中学校、若い世代に対する事業ですとか、そういったものを載せているというような形になってございます。

【委員】

ということは、市が用意したメニューに沿ってということですかね。そのメニューに載ってこないものは問題ですね。その判断は、皆さんのほうでなさるのでしょうけれども、基本的にはガイドラインに沿ったものということですか。

【事務局】

もともと事業にないものを新たに寄附を頂いた事業化するということが厳しい部分もございまして。もちろん、例えば、頂いたことによって全額事業費が賄えて予算化できる

という可能性がなくはないので、そこは正直、ないから絶対にできませんと、この場で申し上げることはできないのですけれども。現状としましては、実際に事業化されているものを掲示させていただいて、そこに寄附を頂いているというところが現状になってございます。

【委員】

市がよくおっしゃるのは、予算がないと。お金がないから、できないという説明をいただくことが多いのですけれども。そうしたときに、そのお金、ふるさと納税でやりませんかというような提案については、受けていただける可能性があるということでしょうか。

【事務局】

可能性というお話をさせていただくと、ございます。ただ、企業版ふるさと納税の要件にも関わることなのですけれども、寄附を頂いた事業者に直接裨益するようなもの。例えば、事業者の方から寄附を頂きました、その頂いた寄附で、その事業者の方が作られている製品を買いますみたいなものとか、その事業者の方に工事をしていただきますみたいなことは、できないという形になります。なので、それ以外の提案が、例えば、ここに街路灯を設置していただきたいです、その設置費用を寄附させていただきます。後の事業は、そのまま市のほうで事業を行うみたいなことは、あり得るのかなとは思ってございます。

【会長】

ありがとうございます。それでは、企業版ふるさと納税の企業にとってのメリットというものは、どこにあるのですか。

【事務局】

官民連携のほかの分野のところとも関わるかと思うのですけれども、市のほうでも周知はさせていただいてはいますけれども、そういったところで社会貢献をされている企業、最近ですと、E S G経営なんていうところも、昨今叫ばれているところでございますし、金融機関さんも、そういった社会貢献活動に関わられている事業さんを融資の検討対応にされている部分もあるかと思っておりますので、そういったところを周知させていただくようなところが、企業版ふるさと納税に関しては、一番のメリットになるのかなというところで考えてございます。

【会長】

そういうことでしょうか。ただ、難しいですよ。一般のふるさと納税の場合には、返礼品だとかで、たくさんいい品物を提供するところは額が大きいとかということがあるのですけれども、企業版の場合には、純然たる社会貢献ということですから、なかなかそういう点では難しいかなという感じはしますけれども。よく2社もやってくれたという思いです。

ですから、僅かではありますけれども、額も含めまして、少しずつ進展してきているのかなという感じはします、このデータを見ますと。市が狙う若い世代が定住するまちづ

くりに使われているという点では、非常に効果的だなというふうに思いますけれども。

ほかに御意見がありましたら、お願いしたいと思います。

【委員】

教えていただきたいのですけれども、去年は1社ということで、そもそも何社集めたいとか、予算というか、目標としている寄附額というのは、白井市自体にはあるのでしょうか。

【事務局】

令和3年度に1社、令和4年度に2社ということでお話を頂いて、実際に寄附していただいているというところがございますけれども。具体的な金額として、ここまで集めますというところを市のほうで、目標金額をここというところで定めるというところは、現状させていただいてございません。

【委員】

であるならば、変な話、2社で契約もあって、すごい大きな寄附だと思います。継続的に寄附を頂くということであれば、100社で例えば一、二万ぐらいという形で、長期安定的に、市として例えば毎年500万ぐらい、25社から30社ぐらい頂けるようなプラットフォームができていけばいいのかなと思うのですけれども。この状況を見ていると、市側からは、寄附してくださいというのは変だと思うのです。多分、基本的には、パンフレットやホームページでしか特に案内はしていなくて、受け身なのかなという印象を受けたので。積極的に、せっかく企業いっぱいあるので、アピールしてもいいのかなということは感じました。

以上です。

【事務局】

事務局のほうから、再度の説明になってしまうのですけれども、今まで、委員さんのおっしゃられたような形で、あまり市として企業に直接のPRみたいなところは、なかなかできていなかったというところが現状でございます。

そういったところもございまして、市長のほうとも相談させていただきまして、市長の就任挨拶のほうに企業版ふるさと納税の御案内をパンフレットでしたり、実際、市のほうで募集している事業について、こういった事業を募集していますみたいな御案内を入れさせていただいて、実際、今、連携事業を行っているような企業さん、実際にもう社会貢献活動を行われている事業さんというところで、そういったところに御案内をさせていただきながら、今後、また件数、金額等増やしていければなというところで、今年度取組を新たに実施することを考えているところでございます。

【会長】

積極的にPR活動をやっていくということが重要なんでしょうね。

【委員】

白井市に事業所があって、本社がないと。これが一つの条件ですよ。事業所があって、その会社は非常に利益を上げているような会社、たくさんあるのではないかと思います。どこの会社がどれだけ利益を上げているか、資料を見れば分かるわけですが、そういった潜在的なポテンシャルを持っている会社、リストを作られて、その会社に対してお願いをすると。説明に上がるといったら、どなたが担当して、どういうアプローチをするかというような作戦を立ててみてはどうですかね。その先頭に立つのは、多分市長さんだと思います。市長が表敬訪問をされて、このような事業を考えているので、ぜひ協力していただませんかと言って、その代わり、御社の名前を白井市として称賛させていただきますとか、何か名前をつけるとか、そういうようなことをされたらどうかということを工業団地協議会の事務局長は、時々話をしています。そういう有力な会社をステージに上げると。白井市を挙げて称賛をするというようなことをプログラムに入れてみたらどうですかということを考えながら。今のお話ではないですが、積極的に工業団地とタイアップして、PRしていくことが重要なのかなと思います。

市長さんが挨拶に回っていくことも重要なだけども、工業団地と日常的にタイアップしてやっていけば、もっと広がっていくのではないかと思います。有力な企業はあるわけでしょう。物すごく利益を上げている会社、結構あるのではないかと思います。時流に乗ってというか。工業団地に限らず、白井市の中にも、そういう隠れた企業があるのではないかと思います。そういうことを市が把握しているということが重要で、把握していて、それをどう活用するかという作戦を皆さんでお立てになって、こういった事業企画を伝えていくことが大切なのではないかなというふうに思います。

以上です。

【会長】

まとめとしましては、今のところ、達成状況に関しましては進んでいるかなということ。ただ、さらに工業団地をはじめ、いろいろな企業に対して積極的に働きかけていくという、そういう活動が求められているのかなということですね。それを強力にお願いしたいということです。

それから、次に白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略の指標の一覧ですが、これに関しては、いかがでしょうか。

【委員】

3番目のところの市民の就業支援、この数字が2年、3年と倍々になっていますので、これは市に就職したという方が増えたということによろしいのですよね。そうすると、全て大変素晴らしい数字になったと思います。

この中身の部分なのですが、無料職業紹介所を通じた就職者数なのですが、これは、白井市の中に住んでいる方が無料相談所を通して入ったのか、または、白井市以外の方が無料相談所を通して入ってきたのかによって、市外から入ってくれば、より人も増えるでし

ようし、大変いいと思うのですが。これは、どのような数値がこの 168 になっているのですか。それが分かれば教えてもらいたいです。

【会長】

事務局のほうでお願いします。

【事務局】

お答えさせていただきます。具体的に、この 168 の数字の中で、市内市外がどういう内訳かというところは、申し訳ありません、現状把握してございません。

ただ、この無料職業紹介所が白井市役所の庁内で開設しているものになりますので、比率としては、恐らく大部分は、白井市民の方が多いのではないかと思いますのですけれども。もし把握できれば、この後、担当課のほうに確認させていただいて、皆様のほうには会議の中で出ましたこの指標について、こういう内訳でしたというところは、御報告できればなど考えてございます。

【委員】

就職先の業種というか、どういうところに就職しているのか、もし工業団地のほうに多くの方が流れれば、そのようなアクセス等も考えれば、より増えるでしょうし、そこら辺のところ、今後の方向として、中身を検討したほうがいいのではないかとこのように思いました。

【会長】

よろしいですか。

【事務局】

委員さんから御意見頂きました指標の中身の検討というところは、今後、各課のほうでも考えられるようにということで、皆さんの御意見ということで伝えさせていただいて。実際、恐らくこの数値だけだと、今、委員さんの御意見にあったとおり、見えない部分があるかと思えます。分析することで、また見えてくる部分もあると思えますので、そういったところを対応できるようにとは考えております。

【会長】

ただ、白井市の課題だったわけですね。都内まで働きに行ってしまうとか。市内で人を止めて、就職もこの市内で完結すると。生活も完結するというような状況が望ましいということでは考えられてきたわけですね。

そうすると、数字の上だけですけれども、伸びているわけです。ということは、効果があったというふうに理解していいのではないのでしょうか。どうですか。もちろん、職業形態だとか、職種だとかということもあるのでしょうかけれども、ただ数値は伸びているので、これは非常に効果があったのだと考えてよろしいのではないかと思います。

ただ、問題は、子供の満足度ですね。小学校とか中学校の満足度が下がっているところがあります。これは問題かなというふうに思えます。今、子供の問題というのが日本の社

会の課題になっているわけで、満足度はやはり高めていかないと、子供がよその地域に行ってしまうと。今、中学も私立受験ということで、よそへ行くというようなことが出てきますので、これは考えていかなければいけないのかなという感じは受けます。

いかがなものでしょうか。数値に関して、いかがでしょうか。

農業の産出額というところも減っているところがありますよね。令和4年度は。こういうのはいかがですか。

【委員】

最近でも、梨に限って見ますと、栽培ができなくなった、確実に売れ行きの的には皆さん上がっていると思うのですが、高齢化も含めて、離農される方、また耕作放棄地、胴切りなどでされている畑も目立ってきていますし。新規就農ということで、増加が数名されたり、数団体増えたりはしているのですが、この中で白井農産物を積極的に購入する市民の割合というのは減っておりますが、それ以上に、農作物の生産量も減っているのが現状ではないかと私自身では思っております。

【会長】

この数値に減少しているところは、将来考えていかないのかなというような感じがします。てこ入れしていくというようなことが求められているというふうに思いますが。

御意見いかがでしょうか。上がっているところもあるので、そういう点は、非常に効果があったというふうに理解できますけれども、落ちているところもあるので、その辺を今後どういうふうに改善していくかということになるかと思えます。

ほかに御意見ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

どうですか、委員さん。

【委員】

皆様のお話を聞いていまして、まず今回、効果がありというのは、無料職業紹介所を通じた就職者数ということで。それがすごく効果があったということの中で、すごくいい効果だと思っています。

その中で、子供の学校満足度というものが下がっているということがあるので、その辺を考えますと、この先を考えると、先ほどのふるさと納税に関連すると思うのですが、ふるさと納税で市の方がいろいろ、銀行みたいに目標があるとか、ノルマがあるとか、そういうわけにはいかないのでしょうかけれども、ただ、このぐらいを何とかふるさと納税で皆さんに支援してもらってという形で支援してもらって、その中で、子供たちの学校の今、遊具とか作れるのかどうか分かりませんが、学校のエアコンだとか、そういったところの満足度を小学生、中学生ぐらいから満足度を増やしていかないと、この先がということなので。先ほどのふるさと納税でいいお話があったので、そういったところで御尽力いただければなど、私は率直に思いました。

以上です。

【会長】

ほかに御意見お願いしたいと思います。白井市の課題というのは、外から白井市に入ってくる人を増やしていくということも重要なただけども、中の人を外へ出さないということが重要なので、子供の満足度というものを高めていかないと、外へ出て行ってしまうということが考えられるので。そうなってくると、人口減少につながっていくわけですから、それは最も危険なことだと思いますので。その点を考えていただきたいと思います。

ほかに御意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

指標の中で、住み続けたいまちづくりの指標が全てについて芳しくないですね。コーディネーター、ボランティア、自主防災、介護の自主グループ、こういったところの数字が総じて悪いということは、今住んでいる方々が、この地域でコミュニティをなかなか形成しにくい状況が見受けられるのかなと。安心して住めるまちという形が一番いいのですが、横の連携が希薄になってきているのかなということです。

自治会だとかも、加入率も大分下がっている状況が見受けられます。そういったところの取組をしていかないと、せっかく来たけれども、隣近所と全くコミュニティが形成できていないという状況の中で、住み続けたいという意欲を失ってしまう可能性もあるので。ここは、地域のコミュニティというものを非常に大事にして取り組むべきではないかなというふうに思います。

【会長】

ほかにいかがでしょうか。特に、先ほどの市民の活動とか、町内会の活動とかも含めまして、停滞しているというようなことが数値からもうかがえますので、数値の低いところを高めていくという努力が今後求められるかなというふうに思います。

したがって、目標はいいし、事業も有効であるというふうに考えられますけれども、低いところを何とか高めていく努力が今後求められるのかなという感じがしております。そんなところでよろしいでしょうか。

では、今出ました意見を参考に、審議会としての意見をまとめて提出するということになろうかと思いますが、よろしく願いいたします。

(3) 令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金の活用事業について

【会長】

それでは、最後の議題です。令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金の活用事業について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料4及び5に沿って説明。

【会長】

それでは、事務局から、令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金の活用事業について説明をいただきました。今年度に事業を実施して、来年度から効果検証を行うということです。

それでは、委員の皆様方から、今の説明に対しまして質問とか確認したいことがあれば、お願いしたいというふうに思います。いかがでしょうか。

デジタルを使った事業ですので、これからの課題ということがたくさん出てくるかと思えますけれども。誰でも使いやすいといえますか、誰でも利用できるというような視点で物事を見ていくということが重要なのかと思います。

例えば、高齢者の方がどれだけデジタルを使えるのかどうかということも含めて、検証していく必要があると思います。若い人たちにとっては有効なのだけれども、高齢者にとっては逆に不便だというようなことも起こってくるかと思えますので、その辺を含めた効果検証ということが望まれるのかなというふうに思います。

ほかにどうですか。御意見お願いしたいと思います。

【委員】

今お話があったように、高齢者の方が、これをどう享受できるのか。先ほども話がありましたように、地域コミュニティとか地域共生、お互いに支え合うという仕組みをこういったものでつなげ、縦割りではなくて、横の一元的に情報を共有して、どこでどういうものを必要としているのかというようなことも、お互いに分かち合うという取組がこういった構想でつながっていくといいのではないかなと、漠然とそういうイメージでおりますけれども。今後の展開に非常に期待したいと思います。

【会長】

魅力的な事業であることは事実だと思います。だから、これをいかに全ての人にとって有効な事業に展開していくかということが求められるのだろうということになりますね。

ほかに御意見ありましたら、お願いしたいと思います。

【委員】

縦割り行政だと、せつかくこういうものを作っても、これは私どもの仕事ではありませんということになりかねない。それを一元的に情報共有する仕組みを行政として持つ必要があるのではないかなということを考えています。

以上です。

【会長】

ほかに御意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。やってみないと分からないという点はありますけれども。

【委員】

今、三つの計画を見させていただいているのですが、2番目のスマートフォンアプリを使って、公園の損傷とか、地域で起きている様々な町の課題等をアプリを使って投

稿できるというのは、これは物すごくいい取組だなと感じました。

一方で、バスのロケーションシステムの導入とか、もう一つ、建築の台帳の交付という形で挙げていただいているのですけれども。これを変えることによって、多分御利用される方って、個人的にはそんなに多くはないのかなと感じてはいるのですけれども、それを電子化することによって、どれだけの効果があるのかなというところまで検証した上で事業を進めたほうがいいのかと感じました。バスのところについても、人口のうち、多分バスを御利用される方って、白井市は、どちらかというところだと車社会になりますので、バスを使っている人というのは、本当にどのくらいいるのかとか、そこら辺は検証していったほうがいいのかと感じました。

以上です。

【会長】

ほかに御意見がありましたら、お願いしたいと思いますが。ナッシー号のバスロケーションシステム、これは重要だと思うのですけれども、茨城県の市だったと思いますけれども、自動運転の実証実験が始まっているとニュースをやっていましたけれども、ああいうことは先取りしてしまっているわけですから、検討していく必要があるのかなと思います。

そうしたら、バスの運転手は要らないわけですから、かなり費用を削減できて、利用者にとっても、運賃が安くなるということが出てくると思いますので、検討してみる必要があるのかなと思います。全国で幾つか実証実験がもう始まっているようです。だから、白井市もそういうものを導入してPRしていくとかということも必要なのかなと思います。

やっぱり全国で注目されないと駄目ですよ、白井市が。行政の責任もあるかと思うのですけれども、千葉県で今、流山が非常に活性化しているのですよね。人口も増えていますし。それは、流山の職員と話をしたときに、とにかく全国にどうすれば注目されるのかを考えてやっているのだということを言っていました。だから、白井市もそういう発想が必要なのだろうと思います。全国的に注目されないと駄目です。と思います。

ということで、この事業は重要な事業だというふうに思いますけれども、いかにこれを実のあるものにしていくか、市民にとって効果的なものにしていくのかということが重要な課題であるということだと思います。

御意見があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。意見がないから、私がしゃべっているわけですが。

【委員】

先ほど高齢者の方が、デジタルのものを使うということは大変だというお話があったかと思うのですけれども。例えば、若い世代がこういったバスのロケーションシステムを、私も違う町で使ったことがあるのですけれども、非常に便利でして。若い世代が、使える世代がこういうものを積極的に使えるような形にしていけば、逆に窓口で対応する高齢者の方に対しても、より充実したサービスを提供するようなことができると思うので、いず

れにしても非常に効果的だなというふうに思います。

以上です。

【会長】

ほかに御意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、今出ました意見を参考にして事業を進めていっていただきたいというふうに思います。

それでは、時間も迫ってまいりましたので、議題はここで終了となりますけれども、最後に事務局から何かあれば、お願いしたいと思います。

【事務局】

今回の会議については、前年度同様であれば、来年3月に実施を行うところですが、議題（3）にてお話ししました国のまち・ひと・しごと創生総合戦略がデジタル田園都市国家構想総合戦略に改定されたことを受け、本市においても総合戦略の改訂の検討が必要となっていることから、改訂案を御審議いただくため、年内の開催も検討しております。

しかしながら、本市計画において、国・県の動向を踏まえて総合戦略を踏まえ、総合戦略を策定する、となっているところ、現時点において、千葉県の実施計画が改訂されていないことから、現時点で、次回会議日程についてお示しすることが出来ません。

委員の皆様におかれましては、流動的になってしまい申し訳ございませんが、次回会議日程については、状況を踏まえて、都度、事務局側より御提案させていただこうと考えておりますので、御承知おきいただければと思います。

事務局からの説明は以上になります。

【会長】

今日、皆様方から意見を頂きました。創生審議会の意見としまして、まとめていきたいと思っておりますので、事務局と私のほうで整理して、まとめたいと思っておりますので、御了解願いたいというふうに思います。よろしくお願いたします。

それでは、これを持ちまして令和5年度第1回白井市まち・ひと・しごと創生審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。